

ねこがねずみを追いかけるわけ

奈良県

むかし、神さまが、動物を十二ひき集めて人間を守らせようと考えました。

そこで、

「十二支じゅうにしの順番を決めるので、何月何日までに私のところに来なさい」というおふれを出しました。

牛は、

「モウ、わしは足がおそいから、遅れるに決まってるぞ。夜のうちに出かけよう」といつて、前の日の夜に出かけました。ねずみは、こっそり牛の背中に乗っていききました。牛がゆっくり歩いて行つて、一番で神さまの御殿ごてんの門まで来たとき、ねずみが先にびよんと御殿にとびこんでしまいました。それで、ねずみが一番で干支頭えとがしらとなつて、牛は二番になりました。

そのあと、とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、にわとり、いぬがやつて来ました。

いのししは、遅れたと思って、朝ごはんを食べながら走ってきたので、口がのびて長くなつてしまいました。

ねこは、集まる日にちを忘れたので、ねずみにたずねました。ところが、ねずみは一日遅い日にちを教えました。

つぎの日にねこが行ったら、神さまが、

「おまえ、日にちをまちがえたな。顔をあらつてこい」としかったです。

それからのち、ねこは顔をあらうようになりました。そして、「ねずみのやつ、おれをだましたな」といつて、ねずみを追いかけて食べるようになったということです。

おしまい。

村上郁再話

資料『子どもと家庭のための奈良の民話』村上郁再話／京阪奈情報教育出版